



カジゴノラヤハンダ 가지고 놀아야 한다

持って遊べなきや



自分の心の中にある祈り

なら祈り、願いなら願い
という思いのたけを打ち
つけていく時に、太鼓の
パワーでも言うのでし
ようか、皮の持つ力、そ
れは、ただ力強いだけで
なくて引くようなところ
や、メリハリとか面白み
というようなものですが、
それらと呼応して、思い
が昇華されていくのを感じ
ます。

そうですね。正直に言っ
て最初にスラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

踊りですから見た目の綺
麗な形というのはもちろ
ん必要です。しかし私の
師匠は「見た目」よりも
打ち付ける「思い」を大
切に指導してくださった
ように思います。

持って舞われる太鼓もあ

りますね。

ええ、たとえばチャンゴ
チュムのチャンゴ。この
太鼓は持つて肩にかけた
だけで「色気」のような
ものを感じます。

「色気」？ですか。

形のせいもあるでしょ
うが、男が女を抱いて
戯れながら踊っているよ
うな色っぽさ感じます。

そういわれると、チャン
ゴチュムという踊りは見
ていてちよっと艶っぽい
華やぎのようなものを感じ
ます。ほかに、手に持
つ小太鼓のようなものも
ありますが？

ソゴチュムのソゴの事
ですね。このソゴは、打つ
ことが即「踊り」という
感じでストリートに喜び
や楽しさ、粋、かわいら
しさというものを表現し
てくれます。「舞」という
部分が多い舞踊の中で、
足のステップをマスター
し、太鼓を身につけて「踊
る」というのは初心者

人たちにとっても楽しい
ひと時ではないかと思
います。ですが、踊りの中
で「躍り」遊べるようにな
ると本当の楽しさが伝
わってくるように思いま
す。

一言で「太鼓」といつて
しまいましたが、いろい
ろな味わいがあるのです
ね。

師匠がよく「가지고 놀아
야 한다 (カジゴ ノラヤ
ハンダ) (注) 持って遊
べなきや」とおっしゃ
いました。演奏の技術やど
んな人生の苦楽をも「遊
び」の世界に浄化してし
まうような師匠の言葉。
こんな風に生き抜くには
体も心も太鼓の皮のよう
な、強靱なしなやかさが
必要なのだと教えられた
言葉でもあります。

「強靱なしなやかさ」…私
に分かる言葉で言うとし
ぶとさ」ってことですか？

* 今回のインタビュは大爆
笑のうちに閉じました。ま
だまだ「なめしが足りない
太鼓の皮」のようなチュム
パンではございますが、良
い「音」を響かせられる日
を夢見て今年も打たれ強く
歩んで参る所存です。また
1年ご愛顧のほどをよろし
くお願いいたします。

注：字義通りの意味は「持って
遊ばなければならぬ」

寿玉
そう言うって下さると嬉し
いです。スラムで使う太
鼓は「ウエブ(ク)」とい
う一面の太鼓です。リス
ムのノリや音楽性の中で、

寿玉
ええ、そうですね。あの「太
鼓」、大きさも様々ですし、
踊りの表情もぜんぜん違
うのですが、聞いていて
気分が高揚してくるとい
いますか、スラムの太鼓
などは心が洗われる様な
気がします。

寿玉
チャンゴチュムやスラム
のことですか？

寿玉
こちらこそ
お正月で、普段余り見聞
きしない和楽器の演奏を
耳に思ったのですけ
れど：寿玉さんは踊りの
中でよく楽器を使いなが
ら舞われますよね。

寿玉
こんには、今年もよろ
しくお願いいたします。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。

寿玉
踊りです。スラムの太鼓を
聞いたときには驚きまし
た。踊りの表情で儚ささ
えも感じられるようなこ
の美しい踊り手のどこに
こんな力強さが隠されて
いたのかと。



鼓に出会って

盧慶順

私は山口県下関市に生まれた。下関は在日朝鮮人が多く住んでいる。町にはキムチの匂いがして、ポッター(注)のおばさんがいて、焼き肉屋さんがあつて、市場があつて。大阪の猪飼野みたいな大きな朝鮮人の町ではないけれど、駅をおりてから市場の近くまではちょっと寂れていて、日本と韓国が入り混じっているような独特な雰囲気がある。わたしはこの町で生まれた。

小さい頃から小鼓を習っていたわけでもないし、見たことも聞いたこともなかったから、まさか自分が将来邦楽家の演奏家になるうとは思ってもみなかったことだ。何か自分の道に出会いたいと思つて歩んでいたら、偶然にもいろいろな縁に恵まれて小鼓に出会ったのだ。

だから最初から日本の楽器を演奏することに迷いがなかったわけではない。その時どきに間違つた道に進んでないかと悩んだりもした。しかし悩んだ末にはいつも、どこの国のものでもあつても同じ、自分が美しいと感じるものを信じるしかないという思いに行き着いた。そして何かの縁で出会わせてもらった邦楽器で、軽々と民族とか国境とかを超えていけたら素敵ではないかと思つた。素敵ではないかと思つた。演奏でも何でも表現するということは、自然に自分自身にじみでるものなのだろう。着物を着て小鼓を打つわたしの音も、下関で育つた在日の色がにじみ出ているといいなと思う。

着物をきて韓国で演奏した時もそうだ。わたしのような特殊な存在を理解してもらえたかどうかは分からないけど、自然にできることが大事なんだろうと思つた。

また、同じ下関出身の趙寿玉さんと共演させていただいた時も、鼓をやつてきてよかったと思つた瞬間だった。寿玉さんの舞踊は、あたたかみがあつて、深いように感じた。鼓を打つわたしの目の前で寿玉さんのチマチョゴリが揺れていることは幸せだった。

まだまだこれから先は長い、在日に生まれて鼓に出会えたことに感謝して自然に演奏を続けていけたら素敵だなと思つている。



幸いにして、これまでいろいろな所で演奏をする機会に恵まれてきた。また先月からは初めて正式にお弟子さんに教え始めた。朝鮮人の私が日本人に伝統芸能を教えるというのはまた不思議な話だが、習いに来る人や演奏を依頼する人はこの人がいいと選んでくれてるわけだからありがたい。

また演奏をしていて本当によかったと思える瞬間がある。

注：「ポッター」とは「風呂敷包み」のことで、正確には「ポッタージャンサ」のことを意味している。「ジャンサ」とは「商い」。「ポッタージャンサ」とは直訳すると「風呂敷包みの商売」で簡単に言うところの商のこと。転じて担ぎ屋にも使った。ここでは「担ぎ屋」の謂い。「担ぎ屋」ポッタージャンサを短くして「ポッター」と称した。担ぎ屋は釜山からキムチなど韓国の安い物を仕入れて関釜フェリーで下関に渡り、下関では安い電化製品を仕入れて韓国に運んだ。一九七〇年に関釜フェリーが就航するようになってからポッターが本格化した。これに因應するため下関の在日は電化製品を大阪などで仕入れて格安で売るようになり、専門の店が多くできた。



読者からのお便り

片岡絵美

寿玉さん、先日(2005年10月2日)の李陵子さんの公演(会)は突然舞台ソデまで押しかけちゃって申し訳ありませんでした。でもお話しできてとっても嬉しかったです。

あの翌日の文楽劇場のセミナーで、李梅芳先生が舞台の上でチャンゴを叩きながら、サルプリーと僧舞のリズムの説明をしてくださいました。

サルプリーはプログラム解説なんかを読むと6拍子と書いてあるのですが、実際にチャンゴを叩いてくださったのを拝見すると、西洋音楽で言うところの3拍子のかたまりが「6つ分」あるという形なんです。

楽譜に書くと3拍子×6=18拍分を「6つ」と数える考え方ののだということがやっと分かりました。この6つ分(=18拍)を「チャンダン」というのか、「カラク」というのかそのへんが良くわからないので、また機会があったらゆっくり教えてください。舞台の上に僧舞の太鼓がそのまま置いてあって、李梅芳先生はこれを叩いてくださったんで

すよ。お弟子さんが叩かれたときには少々気難しかった太鼓なのに先生が叩き始められると実にいい音で響き始めました。

私は寿玉さん以外のかたの僧舞で感心するような太鼓を聞いたことがなくて、寿玉さんには、どうしてあんな素晴らしいリズムのイメージがあるのかと思

つていたら寿玉さんの頭の中で鳴っている太鼓は李梅芳先生の太鼓だったんだと合点がいきましました。ほんんと、寿玉さんとおなじ。(笑)

李梅芳先生は武原はんさんとも交流がおありでいらしたんですね。花柳流の踊りと中国の京劇の舞踊と地唄舞のいいところをつまんで出来た李梅芳流が今の韓国舞踊そのものと呼ばれているんだと分かって、目からうろこが落ちる思いでした。

寿玉さんが常に創作をなさろうとするその姿勢そのものが李梅芳流なんですね。寿玉さんは師匠のいいところだけを上手に取捨選択されているのがわかりました。(笑)

例えば衣装ですが、文楽劇場に展示されていた李梅芳先生手作りの衣装ですけど、僧舞の黒いチャンサムは素晴らしいセンスだと思いました。シナウイの公演のときの衣装は、あれを踏襲したものですよ。

李梅芳先生のおしゃべりはほ

んと面白かったし、ためになつたのですが、あのかたはご自分を意識してなさっていることは口頭で説明してくださるけれども、体で無意識に出来ちゃってることは、学ぶ側が見て盗まないといけないタイプの先生なんじゃないかと想像しています。

お話しの中で「踊るときは体は上半身が男性で下半身が女性。上半身が華やかで力強く、足は極めて女性らしくないとだめ」とおっしゃってました。

これは李梅芳先生が男性であることを念頭において、多少翻訳して理解しないといけない

言葉だと思えます。武原はんさんの地唄舞はそれは色っぽいですけども、地唄舞は日本舞踊の中でも、最も足腰が強くないと踊れない舞踊のひとつです。

李梅芳先生はそのへんが既に十分「強い」ので、そこから先のことしか語ってくださらないだろうと思いましたが習うと大変だろうと思います。この間の2日間はいろいろと考えるいい機会でした。こちらも随分涼しくなってきました。

寿玉さん、風邪をひいたらちゃんと寝て治してくださいね。(笑)

2005年10月11日



本当の自分

加藤 多美



私が韓国舞踊を始めたのは、自分の中に韓国と日本の両方の血がありながら、韓国の文化や、伝統的な事が何も出来ずにいて、何かやってみたくて思っていた時で、近所の文化センターのチラシの中に韓国舞踊を見つけたからです。その頃、腰の痛みに悩まされていたので、丁度良い運動にもなるかなと、軽い気持ちで始めましたが、直ぐに軽い気持ちでは出来ないものだと思感しました。しかし、惹きつけられるものがあつた様でお稽古に行きたくて仕方なかったのです。

日本の学校に行き、日本人の友達に囲まれながら、家ではチェサをし、挨拶も両手を前に膝を着き、韓国料理を食べ、父親の兵役中の苦労話を耳にタコが出来た程聞かされ、お説教も韓国のことわざで諭され、些細なことで叩かれる、殴られる事が当たり前で、日本人の友達には、到底信じられない文化の中で育つたのです。自分がスリークオーターであることは一度も嫌だと思つた事は無いけれど、事あるごとに手を上げられ、酷い言われ方をされる事が物凄く嫌で仕方なかったです。アザを作つて行くときよく同情されたものです。そんな自分を何とか哀想なのかと思つていましたが、オンニ達の話聞き、在日の世界では、父親が厳し

過ぎたり、無茶苦茶を言つたりする事は当たり前なんだと知り、今までの自分の育ちは普通だったんだと、納得する事が出来ました。これを機に凄く辛かつた気持ちが軽くなり楽になったのです。

ある日、お稽古に夢中になる私を見て、母が「お前のお爺ちゃん(の)娘、息子達は一人もやらなかつたのに、孫のあんたがねえ」と一言。その時、母方の祖父が村のサムルノリでケンガリをやつていたと初めて知りました。私が韓国舞踊に惹きつけられたのは、韓国人としての血が韓国を求めていたのだと思ひました。踊りを通して自分の中のアイデンティティーは韓国人だったのだと確信し、やつと本当の自分を見つめる事が出来ました。

踊り始めてやつと三年、腰の調子はすっかり良くなり絶好調です!! あまりの下手さに落ち込む時もありますが、チャンドンにピタッとはまつた時の心地良さを時々感じる事が出来、踊れる事が嬉しくて仕方ありません。もつと踊りたいと欲深くなりました。まだまだひよこですが、これから五年、十年、その先もずっとずっと踊つていたい

活動記録



◎10月16日(日) セッションハウス

華齡 趙富子を寿ぎて
趙富子さんの還暦をお祝いする会が開かれた。趙富子さんが春鶯舞、散調舞、サルプリ舞を踊り、趙寿玉舞踊教室の生徒達18名が南道民謡連曲にあわせて踊つた。80人ものお客様が来た。二次会も歌つたり踊つたりと楽しく過ごし大盛会だった。

◎10月30日(日) 虎の門のニッショーホール(日本消防会館)にて

「日本アマチュアマジッククラブ」の定期発表会に出演した。約700人の観衆を前に「扇の舞」、「小鼓舞」などを披露してマジックショーに華を添えた。

◎12月4日(日) 町田市民ホール

―舞とソリ(音・唱)―
7月に行われた大田区こども劇場に続き、今回は町田こども劇場の主催のもと「韓国伝統民俗、伝統芸能の世界にふれよう」と言うサブタイトルで行われた。演目は閑良舞、カヤグム散調と併唱、サムルノリ、サルプリ、民謡連曲等。客席はほぼ満席で盛況のうちに公演を終えた。公演後、チマチョゴリを着てロビーに行くと、韓国ドラマ(チャングムの誓い)の影響か、子供達がチマチョゴリに強い関心を示した。お客様とふれあうことの大切さを感じた。